

# タクティカル・デザイン

災害時の限られた資源活用法の熊本におけるケーススタディ

慶応義塾大学 水野大二郎研究室

# 1: Background»

近代都市の誕生から100余年、技術の発展とそれにもなう移動の加速が都市そのものの再発明を要求したことにより、私たち都市生活者の日常生活は劇的に変化した。都市の設計手法／対象／主体がめまぐるしく変化していく中で、資本が一極集中して著しい人口増加が生じてしまったのだ。衰退しつつある都市を転用するような創造的活動を通して、市民が都市に対する主体性を改めて獲得するとき、デザインという営為は何をなしえるだろうか。慶應義塾大学水野大二郎研究室では、その可能性を「タクティカル・デザイン」という概念とその実践でとらえてきた。

## 2: Tactical Urbanism»



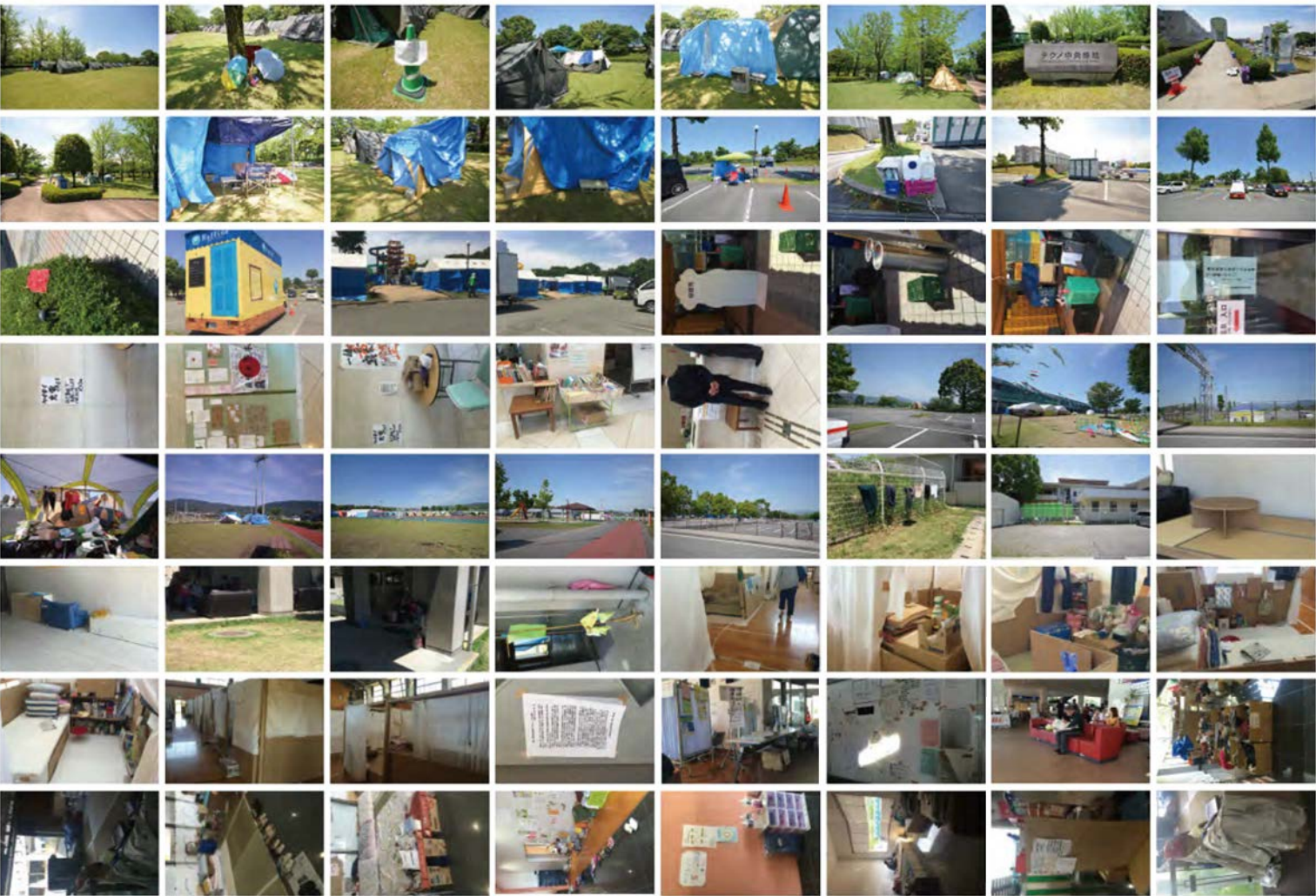
Parklet in San Francisco : 従来の都市計画家によるトップダウン型のものに相対する「住民主体・住民参加型」都市計画。都市部におけるコミュニティスペースの不足を解消するべく、駐車場として設計された既存の空間の意味を読み替え、憩いの場として活用している。



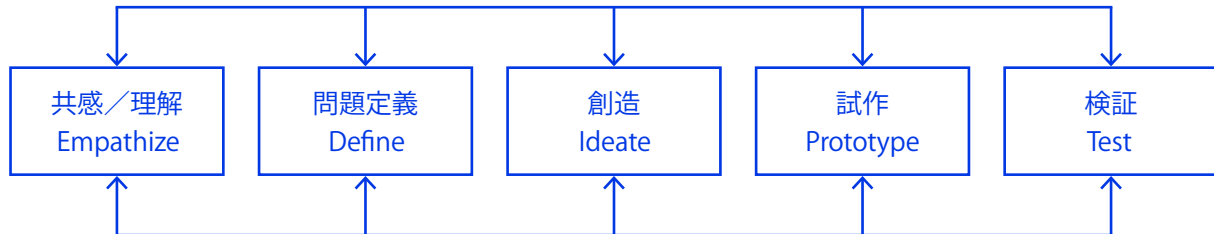
### 3: Issue»



日本においては、阪神淡路大震災（1995）から新潟県中越地震（2004）に続き発生した東日本大震災（2011）、そして今年の熊本地震に代表されるように、国内の各所で連続して被害規模の大きな震災に見舞われており、もはや国内のどこに居ても、我々の「安定した」日常生活が突発的に崩壊する危険性に晒されている。



## 4: Process»



「観察」から洞察を得て、仮説を作り、プロトタイプを製作検証し、試行錯誤を繰り返し改善を重ねながらモノを創り出すプロセス。「共感」「問題定義」「創造」「試作」「検証」の5つのフェーズを反復する。

## 6: Artifact Analysis



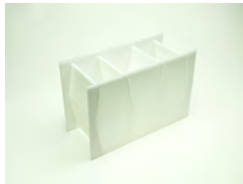
- B-1 段ボール箱／段ボール(板)／ガムテープ／毛布(支給品)》  
 段ボール箱を並べ、上面にさらに段ボール(板状)を敷く。ベッドとして活用している。元来ベッド用の段ボール箱か。寸法1900mm×450mm×350mmほどか。九州カーテンは製紙業者。業者によっては市町村と提携しているところもある。毛布は市町村からの支給品であるようだ。規格は2600mm×1900mm以上、化学繊維。
- 
- B-2 枕／ビニール袋／透明ビニル(購入／支給?)寸法3L以上》  
 明らかに私物である枕(キャラクターの柄物)をビニール袋に包んで使用している様子。汚れがつかないようにしているのだろうか? 寝るときの敷き毛布はそのままであることから、収納のためではないようだ。入浴もままならない現状がうかがい知れる?
- 
- B-3 ブラケース／ビニール袋／段ボール箱／タオル》  
 ブラケース(段ボール箱)にビニール袋(タオル)をかぶせて使用している。寸法は345mm×280mm×250mmほどか。針金ハンガーは使用しないが収納しない(かさばるため)。汚れ防止? であるとすれば何故か? ブラケース(段ボール箱)は支給品なので汚せない?(あるいは汚いので私物を直接触れさせたくない?)ビニール袋はどこから?
- 
- B-4 置いてある傘》  
 箱に立てかけている。公共スペースには置けない(盗難防止か?)が、収納はしたくない(頻繁に使用する/湿気の問題)が、床にも置きたくない? 展開面が汚れるためか。
- 
- B-5 全体を通して》  
 奥に行くほど細かなモノ(水筒、医薬品、ハンディ扇風機、ティッシュ、新聞)が増え、台の上に並べられるようになる。外界とパーソナルスペースの境界は脚側に置きたいためかべぎわが頭側になる。手の届く範囲にモノが並ぶ。このスペースは廊下である。

被災者が自宅以外の場所での生活を通して如何なる体験をしているのか、熊本地震の被災者や避難所の状況、散財するモノ一つ一つを精細に観察し、現地での記録(撮影/音声データ/動画/スケッチ)をもとに分析する。記録写真のトレースに観察できるモノを書き込み、それぞれの規格寸法/素材を列挙しつつ、推察される利用法/意図を分析する。



	ニーズ	資源
安全欲求	帰ってくることを示す 掲示スペースの不足 食卓が欲しい ものをかけたい 床面積が狭く収納に困る 高さが欲しい 収納がなくて不便 ものを清潔に保ちたい	毛布 ビニール袋 ダンボール (板) ダンボール (箱) プラケース (厚) プラケース (薄) ハンガー 柵
	床に濡れたものを置きたくない 立ち上がるのが辛い 床と足が擦れる 床が冷える	養生テープ タオル 新聞紙 ペットボトル
尊厳的欲求	仕切られたスペースに圧迫感 押し付けられたくない 自分たちだけでやることに不安を感じる くらいので夜は活動できない	椅子 ブルーシート 洗濯バサミ つっぱり棒
	子供を嫌がる人々の表情を見たくない 付き合いがなくて寂しい 子供の遊び場が欲しい 寝顔を見られたくない	スタンド ベッド 傘 お菓子箱 スリッパ 水タンク 窓
社会的欲求		

## 7: Prototyping»



被災者の創意工夫に満ちたオブジェクトから抽出された、無意識のふるまいや既存の物資の効率的活用法、それらを導く環境の構成要素などに着想を得、観察された寸法や素材を有意にプリコラージュしながらツールキットを設計する。











「被災地におけるありふれた資源」として、現地では昼間利用されずに放置される「毛布」に着目した。荷締めベルトを用いて毛布が任意の幅になるよう固定し、天板の中央部にボルトを挿入することで瞬時に食卓を形成する。既存の資材を除いてたった3点の部品で構成されるこの食卓は、あらゆるユーザーがその能力によらず簡便に用いることが可能で、避難所などの開けた空間で人々が集うちいさな依代として機能する。





ご静聴ありがとうございました

慶応義塾大学 水野大二郎研究室